

令和8年度 福生市立学校 学校経営方針

学校名 福生市立福生第一中学校

校長名 金子 敏 治

教育目標

これからの新しい時代に向けて、人と社会・自然環境等と協調しながら、生きる力を育む資質・能力を育成するため、次の目標を設定する。

- 自立（自ら考え、判断し、行動する。：「思考力・判断力・表現力」）
- 共生（誰もが相互に人格と個性を尊重し、支え合い、人々の多様な在り方を認め合う。：「人間関係形成力」）
- ◎ 貢献（ある事物や社会のために役立つように力を尽くす。：「課題解決力・実践力」）

1 目指す特色ある学校像

- ・ 全ての教育活動において、一人の生徒を大切にす理念が貫かれ、実行する学校
- ・ 生徒一人一人が夢や理想をもち、主体性を発揮し、豊かな人間性を開花させることができる学校
- ・ 専門性の高い指導による良質な教育活動により、生徒が学ぶ意欲と喜びを実感できる学校
- ・ 「ふるさと福生」に愛着と誇りをもち、発展に進んで貢献する学校

2 学校経営の目標

令和9年度の創立80周年記念式典に向けて、本校の歴史と伝統を振り返るとともに、生徒の学校での学びを地域の課題解決や社会貢献につなげ、これからの新しい学校づくりを推進する。

(1) 中期的目標

- ・ 一人一人のかけがえのない生命を尊重し、心豊かな生徒を育成する。
- ・ 学校・家庭・地域の信頼関係に基づき、地域愛と誇りをもち、社会貢献できる生徒を育成する。
- ・ 夢や理想の実現に向け生涯にわたり自立した学習者として、「好き」（興味・関心）を育み、「得意」を伸ばしながら、主体的に学び続け、最後まで粘り強く取り組む生徒を育成する。
- ・ 教育への情熱と使命をもち、生徒の心情に寄り添い、自己研鑽と組織力を高め続ける。

(2) 本年度の目標

- ・ 人権教育の推進と道徳教育の充実を図ることで、生徒一人一人がかけがえのない存在であるとともに、異なる個性や価値観をもつ他者を理解し、自他を尊重する態度を育てる。
- ・ ふっさ文化の杜委員会（CS）を核とし、家庭や地域社会と連携しながら、愛校心、地域愛、SDGsの視点を踏まえた社会参画と貢献の意識を育み、開かれた学校づくりを推進する。
- ・ 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実から「楽しく・分かる・できる」授業を実践し、「生きて働く確かな知識」の習得と、学力及び学習意欲の向上を図る。
- ・ 「生徒指導提要」に基づく生徒理解と組織的な指導により、生徒が自発的・主体的に成長や発達する心を醸成し、「望ましい生活習慣」と、自ら決断し実行する「自己指導能力」を育成する。
- ・ 学びの多様化学校や外部機関と連携し、特別支援教育を組織的に推進し、個に応じた指導と配慮ある支援を充実させ、いじめ・不登校を未然防止し、安全・安心な学校づくりを行う。
- ・ 学校行事や保健体育の授業等を通して、目標に対して粘り強く取り組む態度を育て、生涯スポーツへの意識の醸成と、生徒の健康増進・体力向上を図る。
- ・ 一中校区小中連携推進計画を基に、義務教育9年間を見通した系統的・継続的な指導を行い、望ましい学習習慣と生活習慣の定着を図る。
- ・ 校内分掌及び研修の活性化を図り、R-PDCAサイクルに基づく円滑な組織運営を行う。

3 目標達成に向けての課題

- ・ 生涯にわたって主体的に学び続ける姿勢の育成に向けた生徒意識及び教員指導力の向上

- ・より良い学校運営推進に向けた教育活動の精選と、より効果的な組織体制の構築
- ・家庭・地域との連携を一層強化し、開かれた学校づくりを推進するための取組の充実

4 経営の具体策

(1) 学力向上

- ・単元を見通した学習カード等を活用し一人一人が授業の目標設定や振り返りを行うことで、本時の学びを既存知識や他で活用できる知識と関連付け、学力向上及び学習意欲の向上を育成する。
- ・ドリルパーク、デジタル教科書、生成AIソフトなど一人1台端末を活用し、習熟度に応じた個別最適な学習や体験的な学習、放課後・家庭学習等の充実を図るとともに、話し合い場面を計画的に設定し、協働的な学習を推進する。
- ・ALT授業、体験学習、検定等を推進し英語教育の充実を図るとともに、朝読書や、図書室、放課後の市立図書館の活用を推進し読書活動の充実を図り、ことばの力を育成する。
- ・校内研修において、生徒がICTを活用した深い学びの獲得、個別最適な学びと協働的な学びの一層の充実に向けた研修に取り組む。

(2) 健全育成（道德教育、生活指導・進路指導）

- ・生命尊重、思いやり、感謝の心等を重点とした道德的価値や22の内容項目について「考え・議論する」道德の授業を通して、道德的心情や判断力を育み、道德的実践力を育成する。
- ・「いじめを許さないまちふっさ子宣言」を生かし、いじめは絶対に許さないという共通認識のもと、未然防止、早期発見、早期対応に向けたいじめ対策委員会を毎週開催し、組織的対応を行う。
- ・不登校対策推進委員を中心に関係諸機関との連携を図り、個に応じたきめ細かい対応を組織的に行うとともに、毎学期初めに心のアンケートを実施し、早期把握と相談しやすい環境づくりを進める。
- ・キャリアパスポートを活用しながら、4つの基礎的・汎用的能力の育成と、社会的・職業的自立に向けて3年間を見通した系統的な指導を推進し、自分の将来に向けて考える指導を行う。

(3) 特色ある学校づくり（特別活動）

- ・主体性及び自治能力の育成と一人一人が安心して自己表現できる集団づくりを目的に、学級経営方針等に基づいた学級活動、生徒会活動、学校行事の計画的な企画・運営を行う。

(4) 健康・体力づくり

- ・「生活手帳」の更なる活用を通して、あいさつ、言葉遣い、食事、歯みがき、睡眠など「望ましい生活習慣」や規範意識の確立に向け、生徒が自ら考え、成長するための指導・支援を行う。
- ・教育活動全体を通して、生涯にわたってスポーツへの興味・関心を高め、運動に親しむ態度を育成することで、生徒の体力向上及び健康意識の向上を図る。

(5) 学校運営（特別支援教育を含む）

- ・より良い教育活動を実施するために、校内外研修の推進、教職員の法令順守、ICT活用による校務効率化を図るとともに、時間外在校時間月45時間以内を目標として取組を進める。
- ・学びの多様化学校、特別支援学級、通常の学級と行事や部活動等の交流を推進し、協力体制を構築する。さらに、校内支援委員会において関係機関と連携を図りながら、特別支援教育の充実を図る。

(6) 家庭・地域等との連携（信頼される学校）

- ・CSを核とした家庭・地域関係機関との連携により、ボランティア活動、防災・食育講話等を協働的に推進し、より一層の信頼関係を構築する。
- ・小中連携コーディネータを中心に各小学校と連携を図り、学習指導・生活指導・特別支援教育等について、系統的、継続的かつ具体的な指導の実践を推進する。

5 年度末のチェックポイント

- (1) 学校評価（生徒及び保護者）の各項目における肯定的回答率の経年比較。
- (2) 「全国学力・学習状況調査」等諸調査の結果について平均値との比較。